

令和 4 年 5 月 30 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17K03674

研究課題名（和文）バンドリングにおける競争評価

研究課題名（英文）Economics of Bundling

研究代表者

大橋 弘 (ohashi, hiroshi)

東京大学・大学院経済学研究科（経済学部）・教授

研究者番号：00361577

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：デジタル化の進展に伴って、複数の財・サービスをまとめて販売したり、あるいは一部の財を無料にしたりするマーケティング手法が多くみられている。本研究では、モバイル市場や電力市場に焦点を当て、こうしたバンドリングという商慣行が与える市場競争と社会厚生に与える影響を分析した。例えばモバイル市場では、通信プラントと端末を分離販売することの競争促進が必ずしも社会厚生増につながるわけではないことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

バンドリングは原則的には競争促進的と考えられるものの、態様によっては排除行為などの反競争的な行為と捉えられることもある。とりわけ通信モバイル市場においては、通信プランと携帯端末とのセット販売や拘束条件付き契約等、様々なバンドリング手法が駆使されてきた。こうした行為が消費者の囲い込みにどの程度繋がっているのか、市場競争や社会厚生に与える効果はどれほどかについての基礎的研究は、国民に身近なモバイル通信に対する政策の在り方を考える上でも欠かせない。

研究成果の概要（英文）：With the progress of digitalization, there are many marketing methods such as selling multiple goods and services at once or making some goods free of charge. In this study, we focused on the mobile and electricity markets and analyzed the impacts of these bundling business practices on market competition and social welfare. For example, in the mobile market, it has become clear that promoting competition by selling communication plants and handsets separately does not necessarily lead to an increase in social welfare.

研究分野：産業組織論

キーワード：バンドリング 競争促進効果 競争阻害効果

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究を開始した 2017 年度当初、電力小売自由化から 1 年が経過し、わが国でも電力やガス、通信といったサービスを対象とするバンドリングが急増していた。バンドリングは、原則的には競争促進的と考えられるものの、態様によっては一商品のみを販売する事業者の参入や事業拡大が阻害されるなど、競争制限に繋がることが理論的に知られている。他方で、現実には急増しているバンドリングのうち、どれが競争促進的か、あるいは反競争的かを判断するための実証的な知見が学術的にも不足していた。本研究では、わが国における具体的な事例の実証分析を通じて、実務とアカデミックの双方の点からバンドリングに対する新たな知見の貢献を目指した。

(2) 研究を開始した 2017 年は、わが国に独占禁止法（以下、独禁法）が成立してから 70 年目の節目を迎えた年でもあった。とりわけ、独禁法が直面する課題としてわが国における人口減少下における法執行の問題があり、わが国戦後の競争政策の評価と課題を論じるにふさわしい背景が存在した。

2. 研究の目的

(1) バンドリングとは、異なる複数の財・サービスを一括して販売することをいう。バンドリングは産業組織論の分野において、大きく分けて 3 つの理論的な観点から議論がなされてきた。まず効率性を向上させる効果である。手袋の右と左というように、片方の手袋のみの需要がほばないような完全に補完的な財・サービスの場合は、明らかにバンドルすることが効率的である。また完全補完的な財・サービスでなくとも、Stigler(1968)が指摘したように、複数の商品を別個に採したり、取引したりする費用がバンドルすることで削減されるのであれば、バンドリングは効率性を向上させる効果として意味を持つことになる。

(2) 他方で、効率性の向上効果がなくても、バンドリングは企業が利潤を得る上での有効な戦略となり得る。これには 2 つの観点があり、それぞれバンドリングについての理論的な背景の 2 番目と 3 番目の説明になる。

(3) 価格差別の観点とその 1 つである。Adams and Yellen (1976)は、消費者の自己選択を促すことで、企業が利潤を得ようとする第二種価格差別として、バンドリングが使えることを定式化した。

(4) 最後に排除行為の観点である。基本的な考え方は、以下のようなモデルで一般的に表現される（例えば Nalebuff, 2004）。既存企業がある財・サービス市場 A を独占しているものの、もう一つの市場 B で競争に直面している場合、この既存企業が市場 A の財・サービスと市場 B の財・サービスをバンドルすることによって、市場 B における需要を減少させ、当該市場における企業を排除しうることが明らかにされた。

(5) 上で紹介した 3 つの理論的な観点のうち、第 1 は競争促進的であるものの、第 3 は反競争的であり、第 2 は一般的に社会厚生を増大させることから競争促進的であると見なせる。本研究ではわが国における具体的なバンドリングの事例を取り上げて、その事例を定量的に分析することを目的にした。

(6) またそれと併せて、その手法を具体的なバンドリングの事例に応用して得られる定量的な結果から、競争政策として、どのようなバンドリングに注意喚起がされるべきかを論じる。具体的には、バンドリングには競争促進的な面（上の理論的な観点のうち最初の 2 つの理論的観点）と競争阻害的な面（上の理論的な第 2 の観点）という両者を理論的には内包しているが、両側面のトレードオフを通じて、総体として特定のバンドリング事例が社会厚生観点からどのように評価されるべきか、またその評価結果を踏まえて、実務的な観点から効果的にバンドリングの競争促進の程度を評価する基盤的な研究を目的にした。

3. 研究の方法

(1) 定量的分析においては、以下の 2 つの分析を行った。産業横断的な分析と産業特化的な分析の 2 つである。企業の垂直的な取引関係がバンドリングのもつ補完性に共通する側面があることを論じたうえで、その補完性の程度が企業の利潤率（マークアップ）に与える影響を分析した。まず 2001 - 16 年までの企業活動基本調査を用いて、4 万社余りの日本企業を抽出し、その企業における取引関係を東京商工リサーチの取引データを用いて、明らかにした。そして De Loecker and Warzynski (2012) や De Loecker, Eeckhout, and Unger (2018) の手法を用いてマークアップ率を推定し、この推定値と取引関係をマッチさせることを行った。

(2) もう一つの定量分析として、産業特化的な分析を行った。バンドリングの一つの形態を国内航空市場に求め、企業合併を外生的なショックと取り扱うことができる点を実証的に示したうえで、合併が国内航空企業における複数路線のバンドリング戦略に与えた影響を価格および品質面から分析した。需要構造及び供給構造をモデル化し、その構造推定を行うことで、モデルの

プリミティブなパラメータを推定し、その上で、複数路線をもつ企業の費用面での効果（economics of density, hub effects）と路線における競争度（独占、寡占の程度）とを組み合わせ、定量的な含意を分析した。

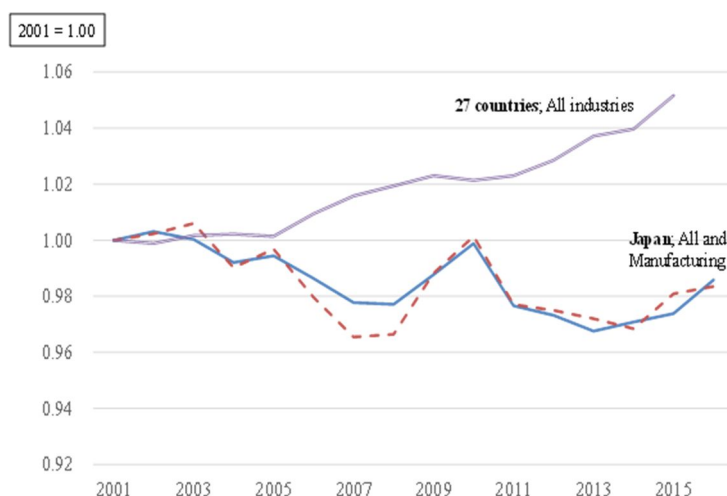
4. 研究成果

(1) 産業横断型の分析においては、企業の取引関係を累次の下請け構造として定量的に捕捉し、この重層下請け関係における位置づけと、マークアップ率との関係を調べた。重層下請けにおいては、上流に行くほどマークアップ率が上がる傾向が確認できたが、産業による頑強性は乏しく、更なる研究が必要とされる。

(2) また企業のマークアップ率の推移についても興味深い観測事実が得られた。2001～2016年の期間において、IMF47か国のマークアップ率はほぼ5%程度上昇しており、この上昇率は企業規模が大きくなるほど大きくなる傾向がみられるのに対して、わが国企業のマークアップ率は全く成長が見られない点であった（参考図表1）。

(3) これらの結果については、OECD競争政策のワークショップや、公正取引委員会主催の市場支配力に関する国際コンファレンスなどで発表された。

参考図表1 わが国と海外主要国とのマークアップ率の比較（2001 - 2016）



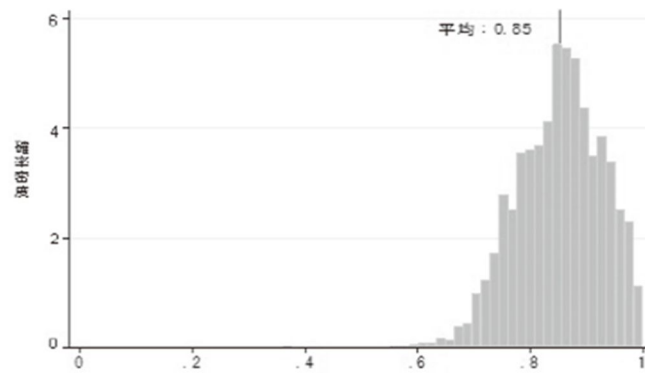
(3) 産業特化的な分析においては、国内航空市場に注目し、とりわけ合併によって独占化する市場における市場アウトカムについて、分析の焦点を当てた。合併によって統合される路線は、いわばバンドル化された路線と考えられるが、それによる効率性向上の効果は、独占化する路線ではネットで失われることが明らかになった。これは、過疎地においては、地域基盤型企業によってサービスが提供されるとすれば、そのサービスは高価になることを示唆する結果であり、何かしらの競争回復措置が必要なが示唆される。

(4) 更にバンドリングに関わる準備的な分析として、以下の3つの分析（再エネ補助に関する分析、医療機器流通に関する分析、公立病院再編に関わる分析）を行った。

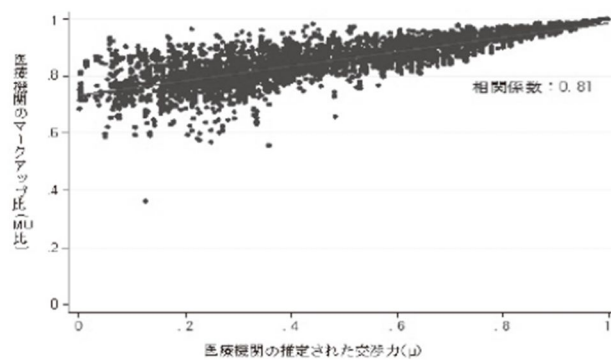
(5) 太陽光発電の普及において、補助金が与える影響とその厚生評価についての分析を行った。この分析においては、わが国において2009年から開始した余剰電力買取制度に焦点をあて、その補助額（賦課金）が社会厚生観点から見て過大であることを示唆した分析が1つ目となる。

(6) 2つ目の分析は、医療機器流通における競争性についてである。埋め込み型心臓ペースメーカを事例に医療機器流通における定量評価について分析を行った。この分析においては、医療機器の取引を卸企業と病院との間の交渉によって記述できるとし、ナッシュ交渉によって説明できる均衡が、寡占モデルの均衡と大きく異なり、病院側に相当の交渉力がある点を明らかにした。その上で、この交渉解が医療機器の流通構造に与える影響を安定供給の観点から考察を加え、患者主権の観点では、流通側に対する政策的手当の必要性を論じた（参考図表2、参考図表3）。

参考図表2 卸売業者に対する医療機関の相対的な交渉力



参考図表3 医療機関のマークアップ比（MU比）と推定された交渉力



(7) また公立病院の再編が費用削減に与える影響を定量的に分析してみた。この点は、公立病院がわが国の財政上の大きな負担となっている中で、一つの政策的な含意を持つものともなっている。分析ノートにまとめたところ、再編による医師・看護師の配置の仕方が、公立病院の費用削減に大きな影響を与えることが明らかになった。具体的にはスタッフの年齢構成を大きく若返らせたところの公立病院の費用削減は顕著であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 大橋弘	4. 巻 885
2. 論文標題 新たな交通のビジネスモデルと政策のあり方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 16-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十川大也、大橋弘、古田早穂子	4. 巻 201
2. 論文標題 公立病院再編における費用削減効果	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済分析	6. 最初と最後の頁 62-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 村山裕三、川島富士雄、大橋弘、森聡、山本龍彦、伊藤亞聖、金子将史	4. 巻 2020年4月号
2. 論文標題 提言報告書：ハイテク覇権競争時代の日本の針路	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PHP総研	6. 最初と最後の頁 1-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kikusato Hiroshi, Fujimoto Yu, Hanada Shin-ichi, Isogawa Daiya, Yoshizawa Shinya, Ohashi Hiroshi, Hayashi Yasuhiro	4. 巻 Early Access
2. 論文標題 Electric Vehicle Charging Management Using Auction Mechanism for Reducing PV Curtailment in Distribution Systems	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IEEE Transactions on Sustainable Energy	6. 最初と最後の頁 1~1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/TSST.2019.2926998	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Isogawa Daiya, Ohashi Hiroshi	4. 巻 70
2. 論文標題 Price Effects of Target Ratcheting: A Progress Report on Medical Devices	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Japanese Economic Review	6. 最初と最後の頁 331 ~ 340
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jere.12235	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura Tsuyoshi, Ohashi Hiroshi	4. 巻 20-E-013
2. 論文標題 Imports, Exports, and the Impact of Mergers on Domestic Markets: A Case Study from Japan's Copper Tube Industry	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1~23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋 弘	4. 巻 833
2. 論文標題 競争の重要性と市場支配力：産業組織論の視点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 公正取引	6. 最初と最後の頁 20 ~ 27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋 弘	4. 巻 712
2. 論文標題 わが国に求められる電力システムのあり様	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済セミナー	6. 最初と最後の頁 68 ~ 73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西川 浩平、大橋 弘	4. 巻 20-J-005
2. 論文標題 市場拡大再算定の経済分析：薬剤費抑制効果の検証	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1～30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura Tsuyoshi, Ohashi Hiroshi	4. 巻 19-E-107
2. 論文標題 Linkage of Markups through Transaction	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1～28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋 弘	4. 巻 40(4)
2. 論文標題 電気料金の経過措置撤廃：概要と展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エネルギー・資源	6. 最初と最後の頁 276～280
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋 弘・西川 浩平	4. 巻 31(2)
2. 論文標題 ジェネリック医薬品普及とインセンティブ政策：2012年度診療報酬改定が薬剤費抑制に及ぼした影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医療経済研究	6. 最初と最後の頁 77～101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋 弘	4. 巻 19-P-021
2. 論文標題 新たな産業フロンティアにおける Society 5.0 の世界	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 RIETI Policy Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naoshi Doi, Ohashi Hiroshi	4. 巻 62
2. 論文標題 Market Structure and Product Quality: A Case Study of the 2002 Japanese Airlines Merger	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Industrial Organization	6. 最初と最後の頁 158 ~ 193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijindorg.2017.11.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Myojo Satoshi, Ohashi Hiroshi	4. 巻 48
2. 論文標題 Effects of consumer subsidies for renewable energy on industry growth and social welfare: The case of solar photovoltaic systems in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 55 ~ 67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2017.11.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋 弘	4. 巻 698
2. 論文標題 デジタルカルテルと競争政策	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 経済セミナー	6. 最初と最後の頁 24-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋 弘、五十川 大也	4. 巻 2687
2. 論文標題 医療機器流通における競争性：植込み型心臓ペースメーカーの実証分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会保険旬報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋 弘	4. 巻 801
2. 論文標題 70年目を迎えた競争政策の評価と課題：経済学の観点	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 公正取引	6. 最初と最後の頁 12-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋 弘、古田 早穂子、五十川 大也	4. 巻 -
2. 論文標題 公立病院再編における費用削減効果	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 CIRJE-D-290	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋 弘	4. 巻 25 (1)
2. 論文標題 不動産流通業と産業組織：今後に向けての研究メモ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 土地総合研究	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi Ohashi, Doi Naoshi	4. 巻 46
2. 論文標題 Empirical Analysis of the National Treatment Obligation Under the WTO: The Case of Japanese Shochu Liquor	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Japanese and International Economics	6. 最初と最後の頁 43-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2017.08.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi Ohashi, Yuta Toyama	4. 巻 64
2. 論文標題 The Effects of Domestic Mergers on Exports: A Case Study of the 1998 Korean Automobile Industry	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of International Economics	6. 最初と最後の頁 147-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jinteco.2017.04.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kosuke Yoshihara, Hiroshi Ohashi	4. 巻 111
2. 論文標題 Assessing the Impact of Renewable Energy Sources: Simulation analysis of the Japanese electricity market	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 RIETI 17-E-063	6. 最初と最後の頁 11-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 西川浩平、大橋弘
2. 発表標題 市場拡大再算定の経済分析：薬剤費抑制効果の検証
3. 学会等名 日本経済学会春季大会2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 五十川大也、大橋弘、穴井徳成
2. 発表標題 負荷データを用いた停電価値の推定：需要の異時点間代替を考慮した実証分析
3. 学会等名 日本経済学会秋季大会2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大橋弘
2. 発表標題 温暖化対策やデジタル化を踏まえた日本の製造業への期待
3. 学会等名 第15回エレクトロヒートシンポジウム（WEB開催）基調講演（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大橋 弘
2. 発表標題 わが国に求められる電力システムのあり様
3. 学会等名 行動経済学研究センターシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大橋 弘
2. 発表標題 エビデンスを重視した政策立案が目指すものは何か
3. 学会等名 第31回公会計監査機関意見交換会議（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大橋 弘
2. 発表標題 エネルギー・トランジションにおける産業構造
3. 学会等名 第11回シンポジウム：脱炭素社会実現のためのエネルギー・トランジション（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroshi Ohashi
2. 発表標題 Bargaining under Dynamic Regulation on Reimbursement: Evidence from Cardiac Pacemakers
3. 学会等名 EARIE 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Daiya Isogawa, Hiroshi Ohashi
2. 発表標題 Price Dynamics Under Target Ratcheting: Application to Medical Devices in Japan
3. 学会等名 APIOC 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大橋 弘
2. 発表標題 エネルギー需要とは何か：経済学の視点から
3. 学会等名 平成31年 電気学会全国大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大橋 弘
2. 発表標題 電力システム改革における残された課題
3. 学会等名 エネルギー資源学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大橋 弘
2. 発表標題 プラットフォームと競争政策のあり方
3. 学会等名 日本応用経済学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大橋 弘
2. 発表標題 イノベーション 生産性向上の本質とは何か
3. 学会等名 イノベーション計画学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大橋 弘
2. 発表標題 Market Structure and Endogenous Product Characteristics: A Study of a Japanese Airline Merger and Remedial Measures
3. 学会等名 Asia-Pacific Industrial Organisation Conference (APIOC 2017)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大橋 弘
2. 発表標題 Bargaining power, regulation, and innovation incentives: Evidence from Cardiac Pacemakers
3. 学会等名 Northwestern Univ. Porter Conference (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大橋 弘
2. 発表標題 Airline mergers and product quality: An empirical analysis of a 2002 case study from Japan
3. 学会等名 Brookings-Tsinghua Center Conference (招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 矢野 誠、中島 厚志、小林 慶一郎、大橋 弘、他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 260
3. 書名 第4次産業革命と日本経済 経済社会の変化と持続的成長	

1. 著者名 大橋 弘 (編著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 368
3. 書名 EBPMの経済学 エビデンスを重視した政策立案	

1. 著者名 大橋弘・財務総合政策研究所	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金融財政事情研究会	5. 総ページ数 308
3. 書名 イノベーションの研究 - 生産性向上の本質とは何か	

1. 著者名 大橋弘、出口敦、松岡秀行、平井千秋、上村理、田井光春、谷繁幸、中野卓、大島耕平、柴崎亮介、堀悟、川村俊二、大方潤一郎、赤司泰義、割澤伸一、羽藤英二、渡辺努、梶谷真司、中島隆博、唐沢かおり、鮫島茂稔	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本経済新聞出版社	5. 総ページ数 312
3. 書名 Society (ソサエティ) 5.0	

1. 著者名 大橋 弘、原 千秋、細野 薫、松島 育	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 276
3. 書名 現代経済学の潮流 2 0 1 8	

1. 著者名 大橋 弘、他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 一般財団法人 土地総合研究所編	5. 総ページ数 370
3. 書名 既存住宅市場の活性化	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------